

令和3年度園評価に関する報告書

1. 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

- 1 基本的な生活習慣の自立に向けて”やりたい“という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
- 2 生活や遊びの中で、豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
- 3 家庭的な雰囲気の中で、子どもが子どもの中で育ちあう環境の下、子ども同士が自由に遊ぶことにより育つ人を思う優しさを育む。
- 4 友だちと楽しく生活する中で良いこと・悪いこと・きまりの大切さに気づき守ろうとし、人と関わる力を育む。
- 5 遊びや生活の中で、子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力を育み最後までがんばる粘り強さ「生きる力」「人を思う優しさ」を育む。

2. 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 子どもたちが園のいろいろな活動に意欲的に進んで活動できるよう、家庭と連携し生活リズムを整える。
2. 遊びや生活の中で気づいたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする思考力、判断力、表現力の基礎を育む。
3. 「面白そう」「やってみたいなあ〜」「それ大好き!」という子どもの興味・関心・意欲を尊重して引き出し、友だちと一体感を感じることを楽しむ活動を行う。また、子どもたちにとってすべての活動が心地よく主体的に打ち込める環境作りをしていく。
4. 様々な年間行事、異年齢保育、小中学校児童との交流、食育活動、地域の行事交流等を通して異年齢の友だち、先生、地域の方たちとの関わりや触れ合う中で優しさ、思いやり、約束・ルール、マナーの守れる協調性、社会性を育てる。
5. グループ活動、また専門講師による指導を通して自分の好きなこと、やってみたいことに主体性をもって取り組み子どもたちの達成感や自己肯定感を高める。

3. 評価と課題

1. 毎日の繰り返しと小さな積み重ねを大切に、子どもが気づけるような環境や言葉がけを意識していくことで、友だちと一緒に基本的な生活習慣が身につける事ができた。
生活リズムについては、家庭と情報を共有していくことで、朝の活動が心地良くスタートし、又一人ひとりの子どもがより安心してすごしていく環境づくりができた。
2. 子どもの発達や興味関心に即した「言語活動」「お話作り」「文字プリント」等を通して言葉のおもしろさや言葉で互いの思いや考えを伝え合う喜びを味わうことができ、言葉の感覚が豊かになった。子どもたちが思いを表現した際に、その子なりの表現を受け止め、時には、その思いを相手に伝わる言葉で代弁したり、言葉をつなげ広げたり、伝える場面を多く持つよう心がけた。様々な言葉と出会い言葉で表現する喜び、満足感・安心感が得られ、次への意欲とつながった。まだまだ思いを出しきれていない子どもたちの発達や表現の仕方などを受け止めながら、安心して思いを表現し認め合えるクラス作りをめざす。
3. 子ども発信のアイデアを取り入れて好きな遊びを沢山取り入れる事でその楽しさ、新たな操作の仕方に気づく経験を増やすことができた。感染予防として異年齢で遊ぶことは少なかったが、年長で取り組んだ遊びを見たり教えてもらったりすることで年長へのあこがれを持つようになった。そして又保育教諭と一緒に遊びを楽しみ、友だちと響きあう関わりを意識することで、繰り返し楽しめる遊びの経験を増やすことができた。次年度は季節や行事だけでなく日常的にも継続して取り組める活動を工夫していくようにする。
4. ルールのある遊びやごっこあそびを通して友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになった。
大縄跳びや合唱・合奏など同じ目標に向かう活動を通して、友だちと合わせる心地よさを感じる事ができた。友だちと意見が違った時や思い通りに進まなかった時には、丁寧に向き合うことで、時間がかかっても、自分の思いを言葉にして伝えられている。
各クラスで野菜を育て食育活動や絵本・ポスター展示などを通じて食に対する関心を高める工夫により、子どもたちにも食に関する興味関心が広がっているので、今後も継続して取り組んでいく。
5. 戸外あそびが十分にできた事や「鉄棒」や「なわとび」など挑戦して達成したことを可視化することによって楽しみながら、体力をつけていくことができた。レッスンの中で習った事を、普段の保育に取り入れ、繰り返すことでできることが増え、達成感につながった。
コロナ渦で今年度も地域の人たちとの交流ができなかったことや自然をいかした活動が十分ではなかった。例年通り行事などができない事もあったが、形をかえて行った行事を通して、改めて園として大切にしたいところに気づけたり、子どもの捉えを考え直したりすることにつながった。